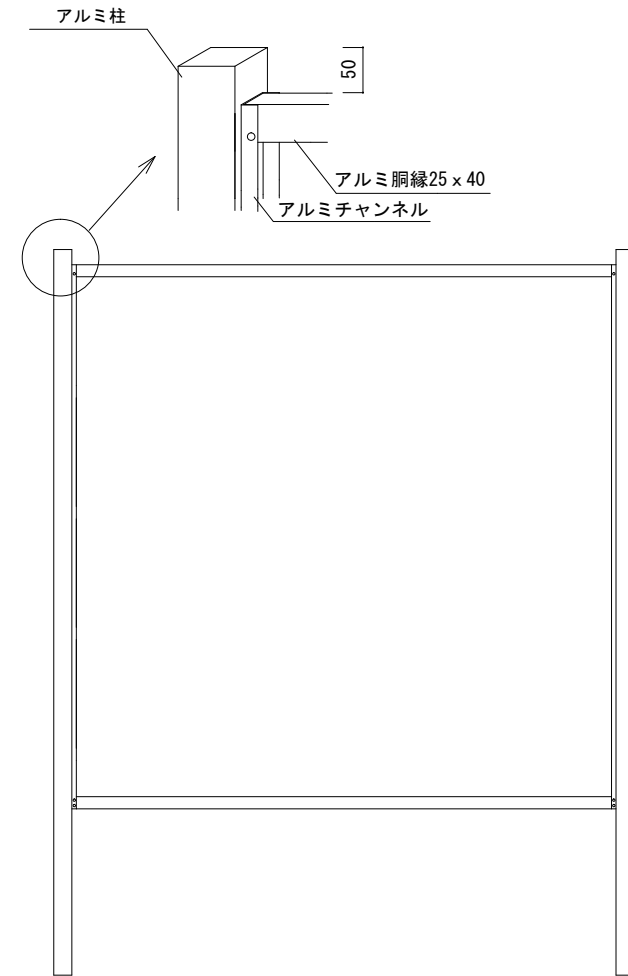


① アルミ柱にチャンネルを取り付ける。

アルミ柱の上面から50mmさがった所にC型チャンネルを取り付けます。

H=1800の場合、チャンネル1本につきビスどめ4ヶ所です。

※4×16(茶)ビス使用



② チャンネルにアルミ胴縁25×40を取り付ける。

下胴縁は表側から2本、裏側から1本ビスどめします。

上胴縁は後の高さ調整のために片側から1本仮どめします。

(H=1500以上は胴縁3段、H=1500未満は上下のみの胴縁2段になります)

※4×16(茶)ビス使用

注：アルミ胴縁とC型チャンネルの間に隙間が出ないようにビスどめして下さい。

施工説明書

御簾垣 柱を見せるタイプ

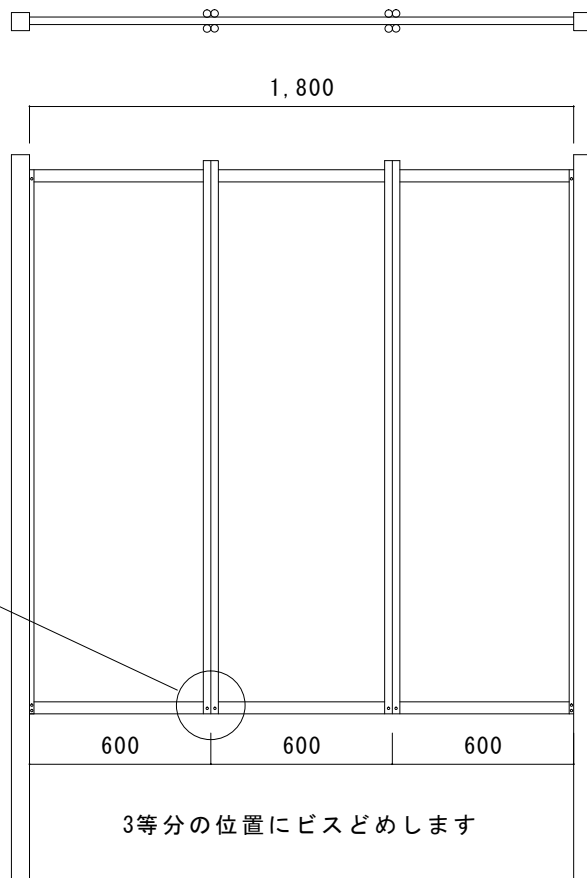
H=1800の場合（茶竹仕様の場合、ビスはすべて茶色を使用します）

株式会社エクスタイル

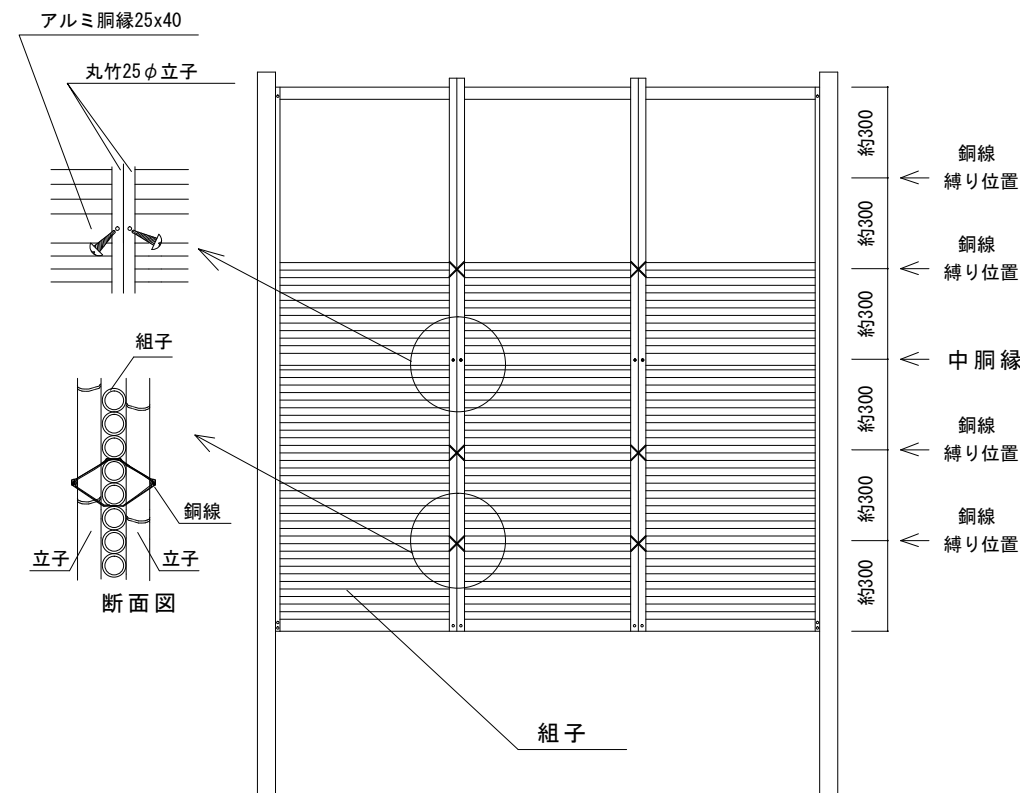
施工に関するお問合せは

TEL 0776-38-2533

上から見た図



上から見た図



③ 下胴縁に立子を取り付ける

下胴縁に立子（丸竹25φ）をビスどめします。

1箇所につき、表側と裏側に立子を2本ずつビスどめします。

立子の長さは、御簾垣がH=1800の場合、L=1830が標準です。

※4×35（黄）ビス使用

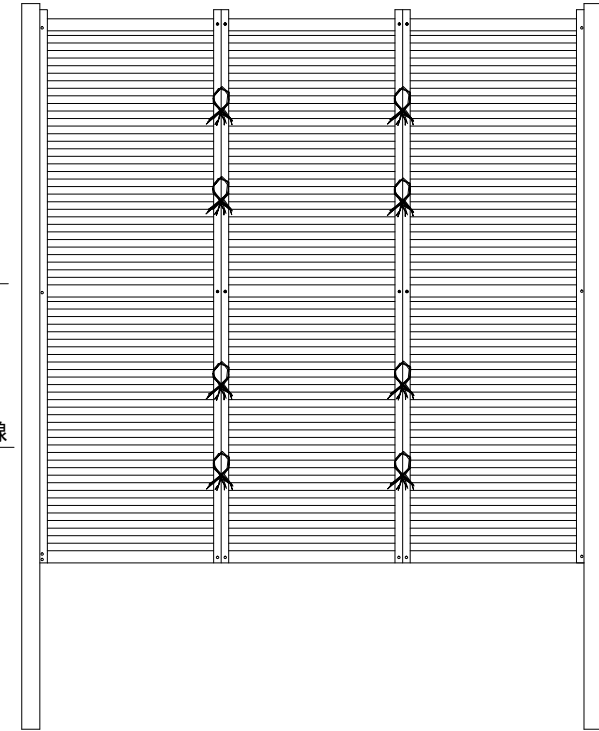
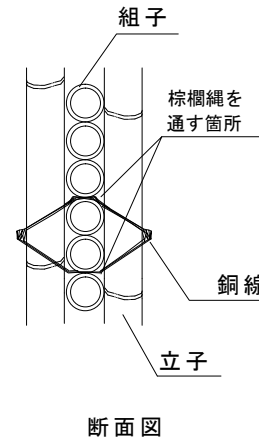
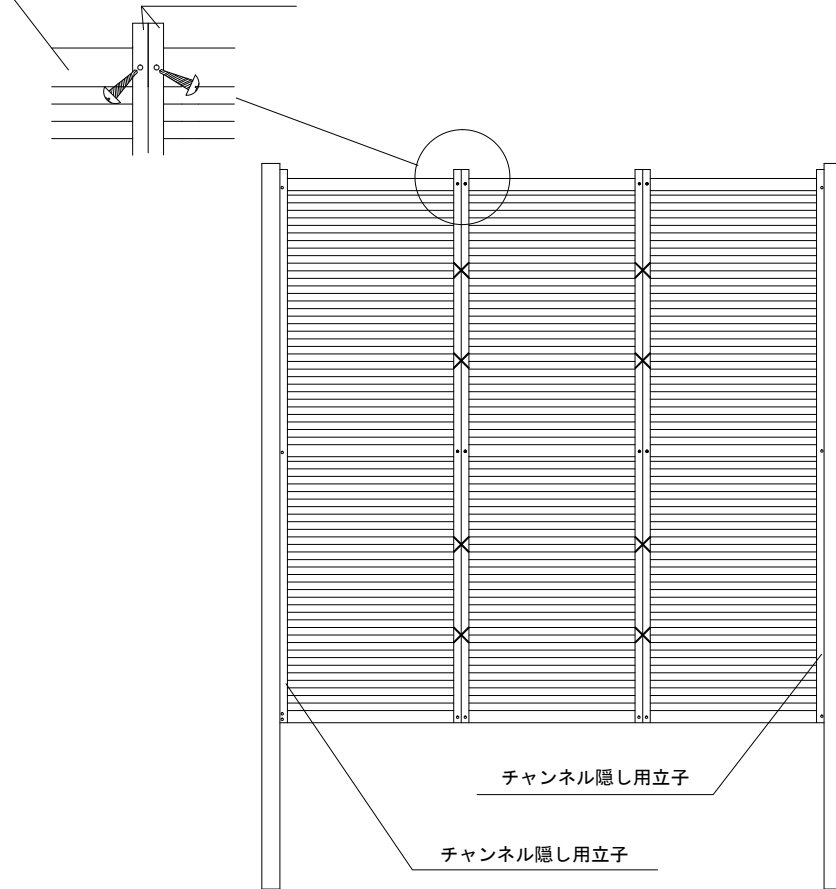
④ 組子を入れ込む

組子（丸竹25φ）を下から順に入れ込みます。途中で表側の立子と裏側の妙子を銅線を使って縛ります。銅線2本を斜め掛けにし、表と裏の立子で組子を強く挟みこむようにしっかり縛ります。下から約900mmの位置に中胴縁を入れ、両端のチャンネル部と立子部をビスどめします。 ※銅線・4×35（黄）ビス・4×16（茶）ビス使用

注：銅線の切り口は危険の内容折り曲げて下さい。

注：組子がおぼろ竹の場合は、きりで組子に穴を開けて銅線を通して下さい。

アルミ 胴縁25x40 丸竹25φ立子



⑤ 上胴縁を固定し両端に立子を取り付ける

上まで組子を入れ込んだら、上胴縁と組子の隙間が出来ないように胴縁を調整します。

両端のチャンネル部と立子部をビスどめし、上胴縁の固定が終わったら両端のチャンネル部分を隠すように、立子を取り付けます。

※4×35(黄)ビス・4×16(茶)ビス使用

⑥ 人工棕櫚繩で縛る

銅線の縛ってある箇所に棕櫚繩を通して結びます。

人工棕櫚繩の切り口は、バーナー等で少し熱を加えるとほづれが防止できます。

最後に柱キャップ、立子キャップをして完成です。

※棕櫚繩の結び方は別紙参照